

## 医動物・種類同定検査結果（令和5年4月～6月）

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和5年4月から6月の3か月間の種類同定検査報告件数は、昆虫類3件（シロアリ目1件、ハエ目1件、ハチ目1件）でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
自宅の風呂場、押し入れに虫が大量に這いまわっていた。 〈4月〉	 有翅虫、黒褐色、約4mm	ヤマトシロアリ (シロアリ目)	寒さには比較的強いが、乾燥には弱い。常に湿った木材や土中で生活する。加害箇所が巣を兼ねている。有翅虫の群飛は、同一地域で1ヶ月間位の幅があり、関東近郊は4～5月である。高山や酷寒地を除く日本全土に分布する。
一戸建て家屋前で多数の虫が飛んでいる。 〈5月〉	 成虫、灰褐色、約6mm	ヒメイエバエ (ハエ目)	小型のハエで、早春から発生する。成虫は、屋内に侵入し、輪舞する。幼虫は動植物性の腐敗物、動物の排泄物、生ゴミなどに発生する。日本全土に分布する。
駅エレベーター1階周辺でアリが大量に発生していた。 〈6月〉	 働きアリ、褐色、約2.5mm	アミメアリ (ハチ目)	女王アリを欠き、働きアリが産卵して働きアリに育つ。数万～数十万の働きアリが石下や倒木下に野営しながら長い列をつくって移動する。日本に広く分布する。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】